

行動障害に対するポジティブ行動支援

畿央大学 教授
博士 (心身障害学)
公認心理師・社会福祉士

大久保 賢一

「ポジティブ行動支援」とは？

- Positive Behavior Support (PBS)
- ”Positive”な行動を…
- ”Positive”な方法 (肯定的・積極的) で…促して本人と周囲の人々の生活の質・人生の質 (QOL) を向上させる

「強度行動障害」に対する有効な支援の必要性

支援者を感情的にしてしまう行動

対応法がわからない(何度言ってもきかない)

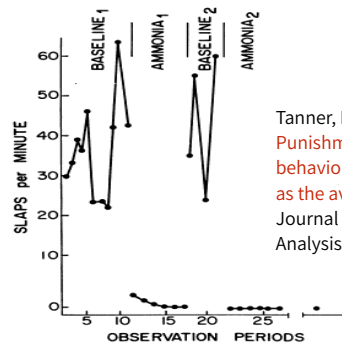
他傷他害
破壊
支援の拒否
自傷
飛び出し
反芻
便いじり
など



身体的虐待
心理的虐待

行動障害の理解と対応の方法を知ること
職員や家族が共通理解して実践すること

嫌悪刺激を用いた研究



Tanner, B. A. & Zeiler, M. (1975). Punishment of self-injurious behavior using aromatic ammonia as the aversive stimulus. Journal of Applied Behavior Analysis, 8, 53-57.

Fig. 1. A record of an autistic woman's face slapping during experimental sessions under baseline and punishment conditions.

ディスカッション 「罰的な対応」の問題点を考える

- 罰的な対応には、確かに「問題行動をやめさせる」効果があるようです
- しかし・・・罰的な対応だけに頼ってしまう問題点は何でしょうか？

罰的な対応の問題点

- []
- []
- []

罰的な対応の副作用

-
-
-
-
-

7

罰的な対応だけでは なかなかうまくいかない

- 以上のような理由で、「罰的」、「嫌悪的」、「強制的」な方法だけではうまくいきません
- そのことを関係者に理解してもらうことも大切なことです
- 「それでは、問題にどう対処すればいいのか？」という具体的な方法論についてこの後紹介していきます

8

「必要なこと」は何か？

- 「虐待はダメ」だけでは多分ダメ
- 利用者に対して適切な教育や環境設定が必要のように…
- 支援者にも教育や環境設定が必要！

9

「必要なこと」は何か？

- 行動障害に関わる虐待を無くしていくための、禁止や拘束、罰的な手続き以外の具体的な方法論
 - 行動を理解するための枠組み
 - 行動理解に基づき支援計画を立案するための様式・プロセス
 - 具体的な支援方法・指導方法
- 支援を継続的に実施するための、組織的なバックアップ

10

ポイント①

- 知的障害や自閉症に対する基本的な理解

11

困難性を十分に理解しているか？

- - 言ってわからなければ、伝え方をかえなければならない
- - 自閉症のある人は「空気を読む」のが苦手
- - 感じ方が違うために、意外なことが辛かったりするのかも…
- - 実は予測性が乏しいことに対する不安なのかも…

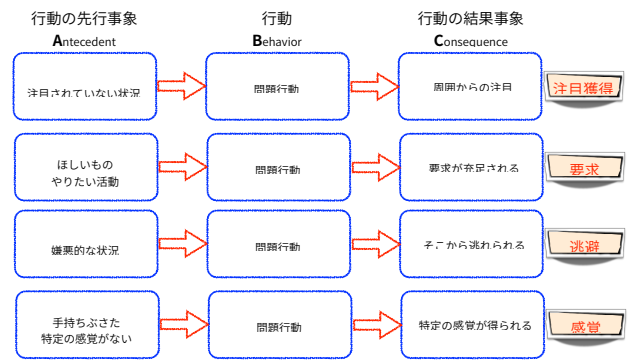
12

ポイント②

・ 行動を理解するための枠組み

13

問題行動には「理由」(機能)がある



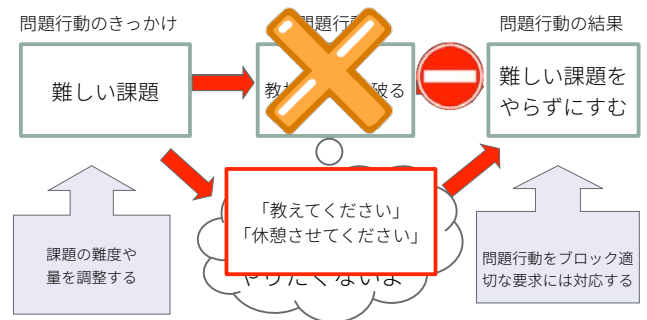
14

行動には理由(機能)がある

- ・ 人は行動によって何かを得ている、あるいは何かから逃れることに成功している
- ・ 「行動障害」や「問題行動」と思うのは、我々の立場からの見方に過ぎない
- ・ 利用者にとっては「必要な行動」であるかもしれない
- ・ 「行動の目的」それ自体には何の問題もない
- ・ 「理由に応じた対応」が必要

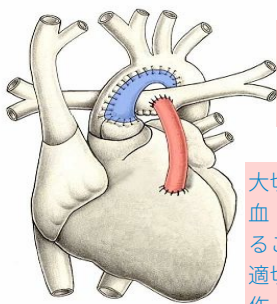
15

問題行動に対する対応の基本



16

問題行動への対応は 「バイパス手術」のようなもの



問題行動には
その人なりの理由や目的、メッ
セージが込められています

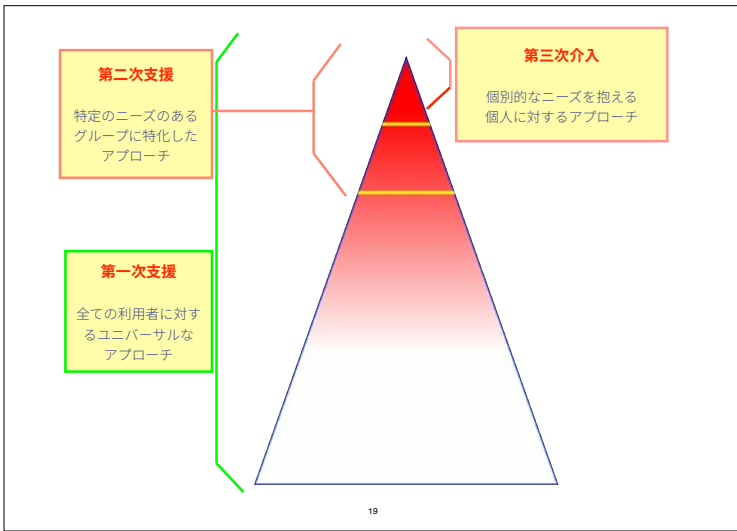
大切なのは
血(その人のメッセージ)を止め
ることではなく
適切な道筋を
作ってあげること

17

ポイント③

・ 適応を支援するための環境設定

18



ユニバーサルな一次的支援

-
-
-
-

20

環境を構造化する

- 何をすればいいのか、わかりやすくする
 - どこでやるのか？
 - いつやるのか？
 - 何をやるのか？
 - どのくらいやればいいのか？いつまでやればいいのか？
 - どのようにやればいいのか？
 - 終わった後は次に何をやればいいのか？

21

声のかけ方、指示の伝え方の工夫

-
-
-
-
-

22

動機づけ（やる気を高める）

-
-
-

23

選択肢を提示する

-
-
-
-

24

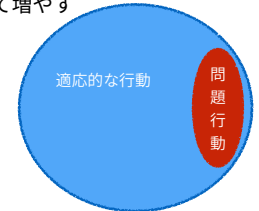
ポイント④

- ・新しいスキルを教えるための指導技術

25

行動支援の本質は「教えること」

- ・利用者が適切に行動できないのは、適切な行動の仕方を知らないためであるかもしれない
- ・適応的な行動が増えれば、相対的に問題行動は減る
- ・QOL向上のために必要な行動を教えて増やす



26

ディスカッション



- ・イルカにはどのように「やったことのない行動」を教えていると思いますか？

27

シェイピング

- ・目標の行動に をほめる
- ・少しずつ を上げて、目標に近づける
- ・今を として、時々まざる を増やそうという発想

28

おわりに

- ・「行動障害をなくすこと」や「虐待をなくすこと」は行動支援の最終ゴールではない
- ・行動支援の最終ゴールは当事者の生活の質（QOL）の向上



29